Hokkaido Imp. Univ., Sec. IV (Zool), 8 : 307-386, 1943 a. —12) 山階芳麿：雑種不妊性の研究に基く鳥類の新分類法の提案 (I) (II), 科學 (岩波書店), XIII, (6, 7) : 203-207, 234-239, 1943 b. —13) "コホロギ類における種の問題" の日本遺傳學會第18回大會 (靜岡市) 講演. 1946. 11. 18. —14) Cockerell, T. D. A. Bees in the collection of the United States National Museum (4), Proc. V. S. Nat. Mus., LX, Art. 18 : 1-20, 1922.

(受付：昭和22年2月8日)

スズキクロヤマアリについて*

日本產蟻類覺え書 (18)

岡野喜久麿
(沼津市志下)

スズキクロヤマアリは先に故寺西暢氏が M. Suzuki(多分, 鈴木元次郎氏)によつて1916年8月, 長野縣八カ岳において採集された2職蟻によつて Formica fusca subsp piced Nylander var. yatsuensis としてその遺稿集の未發表遺稿の部に記載され, その後筆者は日本產の Serviformica 亞屬を纏めた目錄で Formica picea の1變種として扱つておいた[1]. しかして, その後筆者は八カ岳產若干の標本を得, それを他地方產の picea と同定すべきものと比較した結果, 獨立なる1種となすべき事を知り得た. しかしてまた寺西氏が原記載で記述せられし事項中大なる誤りのあるを認めたので本文ではそれらについて——特にツヤクロヤマアリとの關係について以下に記載しておく.

Formica (Serviformica) yatsuensis Teranishi 1940, 寺西暢遺稿集(未發表遺稿), 80, 大阪〔Formica fusca subsp. picea var. yatsuensis〕

スズキクロヤマアリ**

寺西氏は本種の Formica picea との特に主なる差異點として3カ條—(1) Frontal area pronotum and mesonotum not shagreened but alutaceous. (2) Bristles completely lacking onthorax. (3) Scale not rounded but somewhat angled.——をあげておられる.

---

* 本文は昭和20年6月28-29日に書かれたが, 未記載たる雌の記載とともにその分布圏を確定した後に報ぜんと保留しておいたものだが, 今後分布圏の調査の機會に惠まれるか否か疑問なので一まず主要な點を報じておく.

** 本和名は筆者の "山蟻屬若干の和譯名について" (虫・自然誌に掲載さるものにおいて名付けられた, 馬場氏のシナノクロヤマアリ(1945)は異和名である.

さて標徴「1」たる前額，前胸背，中胸背は Formica picea ではザラザラした所謂 Shagreene 狀をなすが，Formica yatsuensis ではビロード狀の光澤を有している．即ち記述通りであるが，この狀態は上記の外に後胸背にても明かに認められる．しかし額，前胸，中胸が褐色を必ずしも呈しているとは限らない．私の所藏する標本中にては赤岳，横岳產の數頭は額，前胸，中胸に限らず，後胸，腹柄，腹部，脚等全部赤褐色を呈しているが

Formica yatsuensis	Formica picea
1) 一體に赤褐色味を帶ぶる．特に頭部下面，腹柄にては明かに赤褐色なるを認めらる．	1) 頭部下面，腹柄は純黑色である．
2) 後胸の隆起は picea に較べるとより著しい．	2) 後胸の隆起は yatsuensis の如く著しくない．
3) 觸角の柄節は鞭節の《1節～8節》＋《9節の 1/2》に等しい．	3) 觸角の柄節は鞭節の《1節～8節》に等しい．
4) 腹柄の鱗片狀板は中央が凸狀に隆起し，かつ圓味を有す(圖1)．	4) 腹柄の鱗片狀板は中央が凹狀に幾分凹み，かつやや角張る(圖2)．
5) 胸部はビロード狀の光澤を有す．	5) 胸部は“さめはだ”狀を呈す．

圖 1　Formica yatsuensis の腹柄背面圖

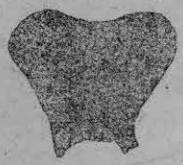

圖 2　Formica picea の腹柄背面圖

これは特別のことと思われ決して總ての標本にてはいえぬことである．しかし Formica yatsuensis Formica picea に較べると明かに赤褐色に富める種であることは明瞭であるが，特に頭部下面及び腹柄は必ず赤褐色を呈する．また體全體においても赤褐色味を僅かに認め得る．從つて年數を經た標本では赤褐色を呈するのではないかと思考せらる．

「2」は picea でも yatsuensis でも同じく剛毛を缺くようである．「3」は最も重要な標徴の1つであるが寺西氏の記述では全く正反對に記されてい

る．卽ち．氏は yatsuensis では Scale（これは腹柄を背面よりみた場合の鱗片狀の事と思わる）は圓くないというがしかしこれは全く逆で，picea では角張り中央は明確に凹んでいるが，yatsuensis では圓味を有し，角が少く，中央は凸狀にでつぱつている．

上記の諸點及びその他の主要差異點を表に一まとめにして揭げた．

以上の檢討に用いた標本は以下の如き產地のものである．

Formica yatsuensis 職蟻多數，長野縣諏訪郡原村中岳，阿彌陀岳(2400–2700 m)，同縣諏訪，北巨摩，南佐久三郡々境赤岳(2899 m)，同縣諏訪郡玉川村本澤溫泉 (2040 m)，1944年8月22日：職蟻多數，長野縣諏訪郡豐平村夏澤峠——上槻，木間(1960 m)，1944年8月23日．

Formica picea＝1職蟻，上越國境谷川岳西黑尾根(1400 m)，1944年9月29日：職蟻多數，山梨縣南日本アルプス地藏岳賽，磧(2600–2700 m)，1944年10月16日その他奧秩父金峯山，滿洲產の數職蟻（以上の標本は滿洲を除き總て筆者採集並びに所藏）．

筆者の手許には未記載の本種(yatsuensis)の1雌(八カ岳橫岳產)を所有するがその記載は後日に讓る．なお，本種は南八カ岳，卽ち，本八カ岳には明かに廣く分布するものであるがその分布が北八カ岳にまで及ぶか否かは興味ある問題であるが未調査である．

末筆ながら"寺西覯遺稿集"の貸與にあずかりし高島春雄氏，滿洲產 picea を提供された眞野嘉長君に深謝する．

1) 岡野喜久麿：日本產クロヤマアリ亞屬目錄．昆蟲學彙報．1（未印刷）．

（受付：昭和22年2月8日）

結核菌 Much 顆粒の本態について

笠原道夫　今きぬ
（大阪大學音響科學研究所，大阪大學醫學部小兒科學教室）

結核菌々體內に認められる Much 顆粒の本態については旣に多數の學者により論議され，あるいは結核菌の退行變性のために生ずる顆粒なりとし，あるいは該顆粒を一單位の生活個體として認めんとし，從來その本態を明確に知ることが困難とせられていた．

以下の實驗において結核菌體內に認めらるる Much 顆粒は明かに結核